



vol. 40

サポセンニュースレター 2026年木蓮号



特集 松戸で広がる、
外で自由に遊べる
居場所を支える市民活動

p2-4



p4_【スタッフコラム】
市民活動の現場から学ぶ、新しい発見

p5_【調査プロジェクト】 世代交代

- p6-7_【サポセンの事業報告】
- まつどみらいカイギ 2025
 - NPO・市民活動よろず講座
ちがいをちからに変えるまちのつくり方
 - 【受け入れカアアップ講座 2025】
初回オープン講演会
誰もが居場所を持てる地域へ

p7_【チャレンジャー】 松戸eスポーツの会

p7_ サポセン新規届出団体

p8_【ある日のサポセン】
「場所がない…」というお悩みから始まる団体運営の話



サポセン
メルマガ登録はこちら！
<https://bit.ly/3gf0dh6>



まつど市民活動
サポートセンター
<http://www.matsudo-sc.com/>

冒険遊び場 まつど あそぼうよ

- ★活動日時 毎月第4土曜日(12月のみ第3土曜日)
- ★活動場所 金ケ作自然公園
- ★参加費 100円
- ★Instagram @playpark_matsudo_asobouyo



松戸で広がる、

特集

外で自由に遊べる

居場所を支える市民活動

プレーパーク(冒険遊び場)とは、子どもたちの「やりたい」という気持ちを大切にしながら、自分の責任で自由に遊べる場所のことです。近年、身近な公園ではボール遊び禁止などの規制が増える中、プレーパークではできるだけ禁止事項を設けず、子どもたちがのびのびと遊べる環境を整えられています。

遊びの内容は様々で、泥遊びやたき火など、普通の公園や家ではなかなかできないダイナミックで自由な遊びを楽しむことができます。そして、その多くは「子どもたちに自由な遊び場を届けたい」と願う地域の大人たちによって運営されています。

日本初の常設プレーパークは、1979年に誕生した「羽根木プレーパーク」です。その後、活動は全国に広がり、2020年の調査では約500の団体が確認されています。

ただし、常設のプレーパークは全体の2割にも満たず、日常的に遊べる場としてはまだ十分とは言えない状況です。

そんな中、ここ松戸でも子どもたちの自由な遊び場をつくらうと活動している人たちがいます。本特集では、松戸でプレーパークを運営する2つの団体をお話を伺い、その取り組みや思いをご紹介します。



プレーパークは、「遊ばなければならぬ場所」ではなく、「大人も子どもも、来たい時にふらっと立ち寄って、気軽に足を運んでもらいたい場所」。

団体設立の経緯とその思い

2000年の設立当時、2つの流れがありました。1つは、森で子どもたちを遊ばせたいという思いを持った保護者たちが集まり、近隣の森を転々としながら活動を続けていたこと。もう1つは、松戸で行われたプレーパークの講演をきっかけに「松戸にもプレーパークを立ち上げよう」という動きが広がっていたこと。この2つの流れが合わさる形で団体の活動が始まりました。

そんなあそぼうよのプレーパークは、参加者と運営側がはっきり分かれているわけではなく、その場にいる人たちみんな場でつくっています。それは子どもたちも同じです。子どもたちに何かをお願いする際には、ただ指示をするのではなく理由も含めて伝えることで、子どもたち自身も場づくりの一員として関わっています。こうした関わりの中で、豚汁やパンをみんなで食べたり、コーヒーを飲んだり、時にはケンカもしたり、それぞれがやりたいことをして自由に過ごせる場所になっています。

また、「ケガと弁当は自分持ち」という考え方も大事にしています。もちろん命に関わることは絶対に避けなければいけません。ケガをすることも大切な経験であり、財産だと思っています。「プレーパークにルールはないから、あなたのやりたいことをやりに来て」そんな思いを大切にしながら活動を続けています。気心の知れたスタッフがいて、子どもたちが安心して過ごせる、そういう居場所になればと思っています。

これからに向けて

現在は月に1回の開催となっていますが、本当は毎週土曜日に開催できるようにしていきたいと考えています。「私たちがいるからおいでよ」と言えるような、そんな居場所を目指しています。プレーパークは、子どもだけの場所ではなく、大人も気軽に立ち寄れる場所です。一人でふらっと来て少し話して帰るのも、虫を拾って遊ぶのも、ただ来て帰るだけでも大丈夫。そんな自由な場であることをもっと多くの人に知ってもらいたいです。



渡辺さん

東さん

今回取材した2団体が同じように話していたのは、
「プレーパークは、来たい時に来て、
何もしなくてもいい居場所である」ということ。
「行けば誰かが居て、誰もが自由に過ごせる空間」
であるプレーパークに、
ぜひ皆さんも行ってみたいですか？

「プレーパーク」という存在を、もっと多くの人に知ってもらいたいです。子どもたちが自分の好奇心のままに挑戦し、いきいきと過ごせる場所を地域の中に作っていききたい！



古宮さん



石川さん

令和7・8年度 市民活動助成事業 実施団体

あそびパーク やきりの

- ★活動日時 月1~2回
- ★活動場所 坂川親水広場
- ★参加費 無料
- ★Instagram @asobipark_yakirino
- ★連絡先 parkyakirino@gmail.com



団体設立の経緯とその思い

「あそびパーク やきりの」は、2024年に不登校などの子どもを持つ母親5人によって立ち上げられました。不登校の子どもたちは、日中に家以外に過ごせる場所がなく、家にこもりがちになってしまうことも少なくありません。また、学校のように同年代の子どもたちと関わる経験は、成長にとって大切な機会でもあります。そうした課題を前に「プレーパークなら、すべてを解決できるのではないか」との思いから活動が始まりました。

「常に誰かがいて、来たい時に来られる。来てても何もしなくてもいい」そんな子どもたちのための自由に過ごせる居場所をつくりたいという思いを大切にしながら、日々活動を続けています。

これからに向けて

現在は、プレーパーク本来の自由な遊びは十分に展開できておらず、開催も不定期となっています。そのため、今後はより幅広い自由な遊びが展開できる環境づくりや、月の決まった曜日での開催を目指していきたいです。そして、最終的には、様々な機関や人と連携することで、運営費の確保やスタッフの生活との両立といった課題を解決し、市内のどこかで常設のプレーパークとして運営できるようにしたいです。また、プレーパークの活動とは別に行っている農業体験で育てた作物をプレーパークで調理して食べる、そんな心もお腹も満たされる場にしていきたいことも、今後の夢の一つです。



Check!

特集(p2~p4)
掲載団体のWebサイト
&Instagram



※URLをお持ちの団体に限ります。

The research project 調査プロジェクト 世代交代



Case 1

あの人にしかできないことが たくさんある

団体の活動の中で「あの人にしかできないことがある」はその団体の個性であったり長所であったりします。ただ、世代交代というテーマにおいては逆にこうした暗黙知にもとづく活動は引き継ぐことが難しくもなります。

暗黙知は「どうやっているのか？」を話したり文章にしたりする中で磨かれるものでもあります。普段の活動に加えて「あの人はどうやってるんだろう？」を勉強する会を開く、などが有効かもしれません。

Case 3

「役員は何をする人か」が 見えにくい

代表や役員の役割が十分に共有されていないと、「大変そう」「自分には無理」と感じられがちです。活動を楽しむ立場と、団体の将来を考える立場では役割が異なります。

実際、団体の運営をしていくなかで、初めて考えるテーマも数多くあります。こうした部分はセンターの講座の中でも特に代表や役員メンバー向けのプログラムを作るなどしていきたいところです。



市民活動団体の中には、10年、20年と長く続いている団体が数多くあります。活動が積み重なるほど大切になるのが「世代交代」です。特に代表の交代は、団体をこれからも続けていくために避けて通れないテーマです。しかし実際には、「誰にどう引き継ぐのか」「うまくバトンを渡せるのか」という不安を抱える団体も少なくありません。

今回は、設立から25年を迎えた「NPO法人人材パワーアップセンター」の藤井代表に、代表交代の経験を伺いました。そのお話から、他の団体にも共通しそうな課題が見えてきました。これらの課題に対して、例えばどんなことができるのか、をセンターのコーディネーターで考えてみました。

NPO法人
人材パワーアップセンター
藤井代表



Case 2

同世代が多くて、 交代する相手が見つからない

メンバーの年齢が近いと、気心が知れて活動しやすい反面、次の担い手が入りにくいという課題もあります。ジェネレーションギャップという言葉があるように、世代が違くと価値観も考え方も違ってしまいます。

単に「若い世代に来て欲しい」ではなく、それが20代なのか30代なのか、もっと具体的にイメージできると自分たちが何をすべきか少し見えてきます。この部分はセンターのコーディネーターにもぜひご相談ください。

世代交代は、特別な団体だけの問題ではありません。早めに話し合いを始めることが、団体の活動を守り、地域の力を未来へつなぐことにつながります。まつど市民活動サポートセンターではこうした調査を通じて見えてきた市民活動の現場の様子をふまえた講座やプログラムを企画していこうと思います。



松戸里やま応援団 × NPO:法人子どもとまつど

木登り、藪漕ぎ、収穫体験など、普段の生活の中では、あまり体験することができないことに触れることで、自然に親しみ興味を持ち、道具の使い方、創意工夫や仲間と協力することを学びます。

あそびの森 in 囲いやま

- ★対象 幼児から大人
- ★日時&場所 年1回(2026年11月22日(日))・囲いやまの森
- ★連絡先 NPO法人子どもとまつど(担当:加賀) <http://kodomotto-matsudo.com>



ふらっと みんなの森

- ★対象 どなたでも
- ★日時&場所 毎月第2日曜日(5・8・11月除く) 10:00~13:00・囲いやま
- ★企画・主催 まつどみんなの森(担当:野口) 080-1098-5962 <https://matsudo-satoyama.org/event/#pura>

森をあそぼう!

- ★対象 小学生の親子
- ★日時&場所 年数回・市内里山
- ★連絡先 NPO法人子どもとまつど(担当:加賀) <http://kodomotto-matsudo.com>



冒険山開放委員会

小金北小の冒険山の見守りのほか、夏のソーメン流しとザリガニ釣り大会、初夏に子どもたちと植え付けしたサツマイモを使っての秋には焼き芋のつどい、冬に凧揚げ大会を「子どもたちの健やかな成長を願って」と言う理念のもと行っています。

- ★対象 主に小学生(幼児も可)
- ★活動日時 冒険山の見守り/毎月第1日曜日 13:00~16:00 イベント/年数回
- ★活動場所 根木内歴史公園・浅間公園など
- ★参加費 無料
- ★連絡先 t-ishi@vanilla.ocn.ne.jp 090-2437-4313(担当:石崎建夫)



森のこども館

森のこども館は、【自然とあそぶ・自然であそぶ・自然をあそぶ】を掲げ、子どもたちの経験、体験の場として開館しています。輪投げ、モルック、皿まわし、けん玉などの昔遊びや木の実をつかった工作など自由に遊びを体験できます。

- ★対象 0~18歳
- ★活動日時 毎月第1・第3土日 10:00~16:00 ※日程変更時は、Instagram、HPにて開館日をお知らせします
- ★活動場所 21世紀の森と広場 森の工芸館 ※場所の変更もあります
- ★参加費 無料
- ★HP <https://morinokodomokan.m-harmony.org>
- ★連絡先 080-7323-9980(開館日の10:00~16:00/担当:館長 石崎)



スタッフコラム Staff Column

市民活動の現場から学ぶ、 新しい発見

皆さん、はじめまして。2025年4月からコーディネーターをしている二井 菜月(ふたい なつき)と申します。現在は、大学院に在学中で、「身近な動物に対する人の苦手意識の緩和」をテーマに研究を進めています。

今回の特集「松戸で広がる、外で自由に遊べる居場所を支える市民活動」は、私が担当させていただきました。取材では、松戸市内でプレーパークの活動をされている2つの団体にお話を伺いました。

大学の講義でプレーパークについて学んだことはありましたが、実際に活動されている方々のお話を聞く中で、初めて知ることや気づかされるものがたくさんありました。講義を通して、プレーパークは「禁止事項がなく、火を使うなど、家や普通の公園ではできないような、自由でアクティブな遊びができる場所」というイメージを持っていたのですが、一方で、取材を通して印象的だったのは、どちらの団体の方からも共通して聞かれた「来たい時に来て、何もなくてもいい居場所」という言葉でした。禁止事項がないということは、「何もしないこと」もまた許されているということ。これは私にとって、まさに目から鱗の発見でした。

サポートセンターの活動を通して、市民活動に関わる様々な方と出会い、お話を伺う中で、今まで気づかなかったことや知らなかったことにたくさん出会っています。毎回、新しい発見があり、とても楽しい時間を過ごしています。これからも、様々な方と出会い、学び、関わっていただける機会にしたいと思っています。

今後、どこかでお会いする機会がありましたら、その際はどうぞよろしくお願ひいたします。



コーディネーター
二井 菜月

受け入れ力アップ2025 誰もが居場所を持てる地域へ
～多様な人を受け入れる視点を学び合う～

12/21(日) 初回
10:00 - 12:30
会場：男女共同参画センター ちゅうまつど3F 研修室 講師：森 祐美子氏

2025年12月21日(日)開催
受け入れ力アップ講座2025 初回オープン講演会

誰もが居場所を持てる地域へ
～多様な人を受け入れる視点を学びあう～

今年度の受け入れ力アップ講座のテーマは「居場所」。昨年12月に実施したオープン講演会では、横浜の戸塚を中心に「子育てをまちでプラスに」をスローガンにコミュニティカフェを運営されている認定NPO法人こまちぶらすの代表である森さんに来ていただきました。居場所づくりや団体運営の実践事例をもとに、活動の軸を見失わずに人と関わるための考え方を学びました。これまでの経験や失敗談も交えながら、組織が抱えがちな葛藤や判断の難しさについてリアルにお話いただき、参加者は自らの活動と重ね合わせて考える機会となりました。アンケートでは、「目的を中心に置いて考えることの大切さに気づいた」「立ち止まり、仲間とすり合わせる時間が必要だと実感した」といった声が多く寄せられました。活動に関わる人同士の対話を重ねることが、無理のない継続と、よりよい居場所づくりにつながることを共有できた場になりました。



夫で運営する活動の原点は、約5年前に始めた大人向けのゲーム交流会です。その中で地域で活動する人たちと出会い、「自分たちが住む地域で貢献できたら」と考えたのが始まりでした。現在は町会やお祭り、

どこのだれだかわからない時代に
ゲームで地域を繋ぐ。

市民活動紹介

CHALLENGER チャレンジャー

松戸 eスポーツの会
Matsudo e-Sports no kai

連絡先
mnwyd2@yahoo.co.jp



「イベントにプラスアルファのコンテンツがほしい」と声がかかった時は、時間が合えばぜひ参加したいと考えています。

スマホゲームの体験会などを開催しています。活動の根底にあるのは、「インターネットが普及したことで、じかに顔を合わせて地域の人たちと会うきっかけが、自分たちが子どものころに比べて圧倒的に少なくなっている。地域で会う人も、どこの誰だかわからない」という現代への強い課題感です。だからこそ、お二人は「リアルに会う場」にこだわります。一緒に遊んだ子が実は隣のクラスだった、といった偶然的な出会いや、そこから生まれる繋がりを支えることに、大きなやりがいを感じています。



サポセン新規届出団体を紹介します！ 2025年11月1日～2026年2月28日（届出順・敬称略）

- 新松戸みんなの食堂 ■世代間ウェルビーイング・ラボ ■檻の中のライオン講演会松戸実行委員会
- ツリーケアを考える会 ■Exedra ■ゆるっとラボ ■チーム ミレニアム
- 松戸市民ネットワーク「松戸で生きたい私たち」 ■市民自治をめざす1000人会 ■QUANG VAN DUYEN
- 老福陶芸クラブ ■涼風連 ■小林チェロアンサンブル ■松じい会 ■アサンテ健康体操
- 東葛合唱団はるかぜ郷土部 ■日本宇宙少年団 千葉スペースポイジャー分団 ■やわらかなつながり協会
- 流れの靴磨き屋 ■小金そうじ部 ■じよんのびシネサロン ■～travelling museum～博物館倶楽部
- 松戸ポールウォーキングクラブ ■matsu yoga ティーンズ ■東松戸混声合唱団 ■カラフル ■ALBL
- DAEDAL BASEBALL CLUB 柏 ■"親子で英語発表会"

2025年12月6日(土)実施
1 まつどみらいカイギ 2025

「自分たちが松戸で実現したい新しい暮らしを生み出す対話イベント」をテーマに今年も開催された「まつどみらいカイギ」。今年は18団体、124名の方々にご参加いただき、冬の寒さをものともせず、熱い対話の場になりました。

NPO・市民活動団体などによる パネル展示 & 交流タイム

午前中の交流タイムでは、みんなで輪になって踊る阿波踊りの体験会や、高校生団体によるロボットの実演・展示など、各団体の活動を「見て」「触れる」ことのできる機会になっていました。



お絵描きの会
「みんなで一枚の紙で遊ぼう！」



惣ノ風連
「阿波おどりの体験」



松戸ロボット研究会
「ロボットの実演」



みらいカイギ

午後の「みらいカイギ」パートでは事前に応募のあった6名がプレゼンし、その内容に関心を持った参加者や団体とともに、グループで対話を深めていきました。

2025年度のテーマ

- 1 認知症予防と認知症の進行を遅らせる場を作りたい
 - 2 科学技術・先進技術がもっと身近な松戸にしたい
 - 3 松戸ビルの記憶と景観を未来へ！市民作戦会議
 - 4 みんなで生きていこうと思える社会のために、森とちいきを繋ぎたい
 - 5 若い世代のみんな！町会・自治会に集まれ！
 - 6 不登校でも子どもたちが地域の人とつながり学べるオープンな「まちのラボ」を創りたい
- ★「みらいカイギプロジェクト」として今後活動予定！



サポセン Facebookはこちら！



対話の最後には、各グループでの「本日のベストアイデア」を共有。投票を行い、上位3団体は今後1年間、「みらいカイギプロジェクト」としてサポセンも支援しながら活動していきます。さっそく始まっている活動の様子はサポセンのFacebookでも発信していきますので、「ちょっと興味がある」という方はぜひご覧のうえ、お問い合わせください。



2025年10月4日(土)開催
2 NPO・市民活動よろず講座

ちがいをちからに変えるまちのつくり方
～障がいのある人もない人も共に豊かに暮らすまちをめざして～

障がいのある方もない方も幅広く参加され、当事者からは「時に傷つく経験もある中で、(子どもとまつどの)このような活動に感謝している」といった声が寄せられました。「当事者の生の声を直接聞けて良かった」「(障がい者に)声をかける側にも勇気があるだろうから親切は断らないようにしている、という言葉が印象的だった」などの感想もありました。互いの立場を知る貴重な機会となり、今回のテーマのまちづくりの第一歩を実感できる講座となりました。

【NPO法人子どもとまつど】
子どもたちとまちの障がい者との交流事業
「〇っといっしょに体験隊」の報告
渡辺洋子さん



【松戸市
肢体不自由児者父母の会】
当事者としてのまちとの
関わりの様子や考えのお話
菊田陽子さんと大吉さん親子

NPO・市民活動よろず講座 2025 10/4(土) 10:00-12:00
ちがいをちからに変えるまちのつくり方
～障がいのある人もない人も共に豊かに暮らすまちをめざして～
無料

活動場所を見つけるノウハウ

「場所がない…」という悩みから始まる団体運営の話

サポセンによく届く「相談の中でも、実はとても多いのが「活動場所」に関する悩みです。そんな声を受けて、2025年9月のよろず講座では「活動場所を見つけるノウハウ」をテーマに取り上げました。今回はそこからまとめたポイントと、サポセンでできる相談をご紹介しますね。

1 「どんな場所が必要か」を考えてみる

最初にお伝えしているのは、「探す前に、整理することが大事」ということ。例えば「こんな視点です。」

- 常設の拠点が必要？それとも月1回のイベント？
- 何人くらい集めたい？
- 音や飲食はOKなほうがいい？

など、「とりあえず借りられる場所」ではなく、自分たちがどういう活動をしたのかを考えておくことが重要です。

2 活動場所の選択肢は意外とある？

サポセンをはじめとして、公共施設を活用することはもちろんですが、視野を広げると他にもいろいろあつたりします。それぞれに「安価で使いやすい」「自由度が高い」「オーナーとの関係づくりが必要」などメリット・デメリットがあるので、どれが良い悪いではなく、自分たちに合っているかどうかで探していきましょう。

- 市民センターなどの公共施設
- レンタルルームやカフェなどの民間施設
- 他団体の拠点を使う間借り
- 自宅をひらく住み開き
- 公園や空き地の活用
- オンラインサロンや仮想空間 など



3 場所とお金はセットで検討する

そもそも会場費をどうやってまかなうか、イベントで会場を借りて参加費を集めるのであればシンプルな収支で考えることもできますが、常設の物件を賃貸するとなると初期費用や光熱費など維持費も考えていかなければいけません。一般的に団体の収入は参加費など事業収入・寄付や会費・助成金などがありますが、支出の方を「何もしなくてもかかるお金」と「活動するからこかかるお金」を分けて考えると、無理のない計画が立てやすくなります。

サポセンでできること



ここまでお伝えした上で「どうやって探せばいいかわからない」という声もよく聞きます。「うちの活動には、どんな場所が向いている？」
「将来、拠点を持つなら今から何を考えればいい？」
サポセンでは、こんな活動内容や状況と一緒に整理しながら、場所・人・資金をどう計画していくか相談に応じています。

活動場所の悩みは、実は団体のこれからを考えるチャンスでもあります。
「まだぼんやりしている」「何から相談していいかわからない」
そんな段階でも大丈夫です。お気軽にお問い合わせください！



サポセンニュースレター

第40号(2026年木蓮号)

発行日: 2026年3月15日
(※年3,4回発行)

発行元: まつど市民活動サポートセンター
(指定管理者NPO法人まつどNPO協議会)

ぽっく

主な設置場所

松戸市内の図書館、市民センター、公民館等
各種公共施設などに設置しています。

設置協力店

Sampo Café(八ヶ崎 7-31-5)

松戸観光案内所(本町 7-3)

やしま商店(本町 6-3)

隠居屋 IN kyo-Ya(南花島中町196)

いわぼんホール(岩瀬38)

紙敷あんど(紙敷1135)

さんさん カフェ(仲井町 2-6-4)

みんなでパーク(小金原 6-2-13
京成リブレ2階)

本屋 BREAD&ROSES
(常盤平 4-8-15 ウエキビル 1F)

良文堂書店松戸店(松戸市松戸 1225)

omusubi 不動産
(総台 1-21-1 あかぎハイツ 112)

Coworking Space Flat Café & Bar
(新松戸 3-289)

昭和セレモニー松戸・矢切・北小金儀式殿
(千駄堀620-1・栗山19-4・殿平賀75-2)

松戸スタートアップオフィス
(松戸 1307-1 松戸ビル 13F)

まちかどアトリエ Neiro
(松戸 1117 ビラ松濤 2F C号室)

鉄塔の下の倉庫(六実 2-38-9)

さくら島村トータルクリニック
(和名ヶ谷 1424-22)



まつど市民活動
サポートセンター

〒271-0094 松戸市上矢切 299-1(総合福祉会館内)

TEL: 047-365-5522 FAX: 047-365-5636

E-mail: hai_saposen@matsudo-sc.com

URL: <http://www.matsudo-sc.com/>

facebook: <https://www.facebook.com/matsudo.sc>

Instagram: https://www.instagram.com/hai_saposen/

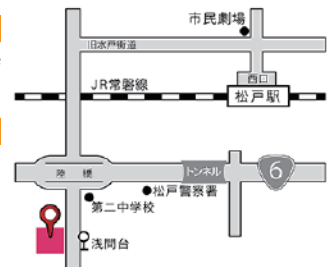
X: https://x.com/matsudo_sc

開館時間

月～土: 9時～21時
日: 9時～17時

休館日

第1・第3水曜、
年末年始
(12/29～1/3)



編集
後記

今年は河津桜の開花が早かったですね。サポセンの花壇も早々に春が訪れています。ぜひ覗いてみてください!(ひ)

「ぽっく」の配架にご協力いただける
お店・施設を募集します!

ニュースレター「ぽっく」を、お店や施設に配架していただけませんか?ご協力いただいたお店・施設は、この欄で名称・所在地等をご紹介します。もちろん、無料でお届けし、部数もご要望に応じます。詳しくは、まつど市民活動サポートセンターまで、お電話・メール等でお気軽にお問合せください。